

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介致します



### 合田 直弘

12月10日にシャティーン競馬場で行われた香港国際競走で、タイムウォープ(ゼット)に騎乗して見事にメイン競走のG1香港カップを制したザカリイー・(ザック)・パートン騎手(34歳)が、今月このコラムの主役である。

07／08年シーズンから香港に在籍しているパートンは、12年にアンビシャスドラゴンに騎乗して香港マイルを、13年にドミナントに騎乗して香港ヴァーズを、14年にエアロヴェロシティに騎乗して香港スプリントを、そして16年にはビューティオンリーに騎乗して香港マイルを、エアロヴェロシティに騎乗して香港スプリントを制しているから、タイムウォープによる香港カップ優勝で香港国際競走の完全制覇(翌朝の地元紙には「これを「グラン\_dstラム」と形容)を達成したことになる。

実を言えば、香港カップにおけるタイムウォープは、パートンにとってはテン乗りであった。前々走のG3ササレディースペース、前走のG2ジョッキークラブCで同馬の手綱をとっていたのは、香港のリーディングジョッキー、ジョアン・モレイラで、結果はいずれも2着であった。そのモレイラが、香港カップにおける騎乗馬に日本調教馬のネオリアリズム(牡5)を選択した時には、地元の関係者やファンの間にかなりの物議を呼んだものだ。いわく、前哨戦で2着になつた香港調教馬をモレイラは見捨てるのか?!、と。

空位になつたタイムウォープの鞍上に指名されたのが、たまたま体の空いていたリーディング2位のパートンだったので、パートンとしては実にラッキーな状況だった。そしてそのタイムウォープを、1番人気ワーザー(2.2倍)とそれほど差のない、オッズ4倍の2番人気に支持したということが、香港の競馬ファンがパートンにも絶大になる信頼を寄せているとの、何よりの証しがなつた。

しかしして結果は、2着ワーザーに2.14馬身という決定的な差をつけ、なおかつ、モレイラ騎乗のネオリアリズムを3着に退けての勝利だったのだ。それも、発馬後ジワつとハナに立ち、半マイル $\frac{1}{2}$ 51秒39、6F $\frac{1}{2}$ 分15秒76というスローペースに持ち込み、上がり2Fを22秒08で駆け抜けたという、鮮やかなりし逃げ切り勝ちであった。

オーストラリア出身で、ブリスベンで騎手デビュー。3シーズン目となつた02／03年に、見習い騎手の身でブリスベン地区のリーディングを獲得し、センセーショナルな話題を呼んだ。その後に移籍したシリーズでも、リーディング2位を2度経験している。

10年1月にフェローシップでスチュワーズCを制したのが、香港G1初制覇。12年6月には、リトルブリッジとともに英国に遠征し、ロイヤルアスコットのG1キングズスタンドSに優勝。同年12月、

日本のワールドスープーリヨウキーに初参戦し、2勝を挙げてシリーズ優勝を得た。13年5月にはミリタリータックに騎乗してG1シンガポール国際Cに優勝するなど、その活躍はこの頃からワールドワイドなものとなつていて、

そして、13／14年シーズンに初めて、香港リーディングを獲得。実はこれ、前シーズンまで13季連続でリーディングの座にあつたダグラス・ホワイトを引きずり降ろして獲得したタイトルで、ここでもセンセーションナルな話題を呼んでいる。

更に、パートンと言えば忘れてはならないのが、14年10月、アドマイヤラクティイに騎乗して果したG1コーフィールドC制覇だ。15年3月には、エアロヴェロシティに騎乗して、G1高松宮記念優勝も果たしている。

香港国際競走の4日前にハッピーヴィクトリイで行われた、インターナショナル・ジョッキーズ・チャンピオンシップで、シリーズ5度目の参戦にして初優勝を達成。勢いに乗つて臨んだのが、香港国際競走だた。今季の香港リーディングは12月10日の開催を終えた段階で、首位モレイラ11勝に対し2位パートン36勝と、4季ぶりのリーディング奪還が可能な位置にパートンは付けている。いずれにしても、香港にはモレイラ以外にも、目を離してはいけない騎手がいることを、私たちは忘れてはならないのである。